



Cisco Unified MeetingPlace Express システムの一般的なトラブルシュー ティングのヒント

この章には、次のトラブルシューティングに関するトピックがあります。

- [ディスク ドライブのスワップアウト \(P.5-2\)](#)
- [ファイルの場所 \(P.5-3\)](#)
- [ライセンス エラーの問題のトラブルシューティング \(P.5-4\)](#)
- [過剰な数の電子メールがランダムに送信される問題のトラブルシューティング \(P.5-4\)](#)

この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカル サポート](#)」を参照してください。

ディスク ドライブのスワップ アウト

ここでは、使用している Cisco MCS サーバでハードディスク ドライブをスワップ アウトする方法について説明します。Cisco MCS サーバには、それぞれ複数のハードディスク ドライブがあるため、1つのハードディスク ドライブに障害が発生しても、Cisco Unified MeetingPlace Express システムを継続して使用することができます。ただし、冗長性はないため、システムがダウンした場合は、オペレーティング システム、アプリケーション、データが失われる可能性があります。

作業を開始する前に

-
- ステップ 1** Cisco MCS サーバのモデル番号を確認します。
 - ステップ 2** Cisco MCS サーバのどのハードディスク ドライブに障害があったかを確認します。
 - ステップ 3** 交換用ハードディスク ドライブを発注します。交換用ハードディスク ドライブは、交換されるものと同じモデルである必要があります。
-

Cisco MCS 7825 でのディスク ドライブのスワップ アウト

Cisco MCS 7825 のすべてのバージョンには、フロントアクセス方式のシンプルスワップ Serial Advanced Technology Attachment (SATA) ハードディスク ドライブが付属しています。SATA ハードディスク ドライブには、サーバの前面ベゼルの開口部からアクセスできます。ハードディスク ドライブに障害が発生した場合は、サーバのダウンタイムをスケジュールしてサーバの電源を切り、障害のあった SATA ドライブを取り外して、未設定のスペアのハードディスク ドライブに交換します (各ドライブには、サーバに接続されたドライブと確実に連動するフロント ラッチが装備されています)。

ディスクを交換するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** サーバとすべての周辺装置の電源をオフにします。
 - ステップ 2** 電源コードとすべての外部ケーブルの接続を外します。
 - ステップ 3** 障害のあるハードディスク ドライブを取り外します。
 - ステップ 4** 新しいハードディスク ドライブを挿入します。
 - ステップ 5** 電源コードとすべての外部ケーブルを接続します。
 - ステップ 6** サーバの電源をオンにします。
 - ステップ 7** Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムを再インストールしてアプリケーションを元に戻し、バックアップからデータを復元します。
-

Cisco MCS 7835 または MCS 7845 でのディスク ドライブのスワップアウト

Cisco MCS 7835 および Cisco MCS 7845 のすべてのバージョンは、RAID 1 を使用して設定された、最高 6 つの Small Computer System Interface (SCSI) ホットプラグ ハード ドライブ（または 5 つのホットプラグ ハード ドライブと 1 つのホットプラグ テープ ドライブ）をサポートします。これらはホットスワップ可能な SCSI ドライブであるため、サーバの電源を切らずに変更することができます。

ハードディスク ドライブに障害が発生した場合にディスクを変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 障害のあるハードディスク ドライブを取り外します。



(注) システムの電源をオフにする必要はありません。

ステップ 2 新しいハードディスク ドライブを挿入します。

新しいディスクは、中断なく自動的に同期されます。

ファイルの場所

システム管理者は、複数のファイルを使用します。表 5-1 は、いくつかの一般的なファイルの場所を示しています。

表 5-1 ファイルの場所

場所	説明
/lat/bin	ほとんどの実行ファイルを格納
/var/mp	ほとんどの stderr および stdout ファイルを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/application/logs	ほとんどのログを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/application/versions	インストールされた各バージョンのディレクトリを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/uninstaller	アンインストール用スクリプトを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/database/db-maintenance	バックアップ、アーカイブおよび復元用データベース スクリプトを格納

ライセンス エラーの問題のトラブルシューティング

問題 ライセンスをインストールしようとしているのですが、「Sorry. Cannot enter the license at this time.」というエラーが出ます。なぜでしょうか。

解決策 製品のインストール時に入力したホスト名が 32 文字を超えています。**net** コマンドを使用して、システムのホスト名を 32 文字以下に変更してください。**net** コマンドについては、『Cisco Unified MeetingPlace Express インストールアップグレードガイド Release 1.2』を参照してください。

問題 Cisco Unified CallManager Release 5.x を使用していますが、Cisco Unified MeetingPlace Express の Cisco Unified IP Phone サービスにアクセスしようとすると、正しいユーザ名と PIN を使用しても、必ずログインに失敗します。電話の画面には、認証失敗のメッセージが表示されます。なぜでしょうか。

解決策 これは既知のバグです。回避策として、Cisco Unified CallManager の管理領域にアクセスし、Cisco Unified MeetingPlace Express サービスに移動して、変更をしないまま **[登録の更新]** をクリックします。



(注) この問題は、Cisco Unified CallManager Release 4.x 以前では発生しません。

過剰な数の電子メールがランダムに送信される問題のトラブルシューティング

問題 Cisco Unified MeetingPlace Express システムが過剰な数の電子メールを送信することにより、使用中の電子メールおよび音声メール システムがクラッシュします。どうしたら止めることができますか。

解決策 その電子メールは cron スクリプトによって生成されています。cron デーモンは、crontab ファイルに設定されている電子メールアドレスに対して、すべてのジョブの電子メール レポートを送信します。この電子メールを無効にするには、crontab ファイルを手動で編集して、MAILTO の行を MAILTO="" に変更します。

Web ページが表示されない問題のトラブルシューティング

問題 Cisco Unified MeetingPlace Express システムのインストール後、ホームページが表示されません。

解決策 インストール時にホスト名の値を正しく設定したかどうか確認してください。正しくない情報を入力した場合は、**net** コマンドを使用して値を変更します。**net** コマンドの使用の詳細については、『Cisco Unified MeetingPlace Express インストールアップグレードガイド Release 1.2』を参照してください。